

# 熊本県初の国**宝**

あ お い あ そ じん じゃ

# 青井阿蘇神社



青井阿蘇神社「龍の彫物」と本殿正面

人吉市上青井町に位置する青井阿蘇神社は、平成20年6月9日付けで「重要文化財のうち極めて優秀で、かつ、文化史的意義の特に深いもの」として、文部科学大臣から熊本県で初めての国宝の指定を受けました。

郷土熊本の誇りにつながるもので、文化財を守り伝えることの大切さや、先人への思いをはせる機会になれば幸いです。

## 国宝とは？

私たちの身の回りにはたくさんの数の文化財がありますが、そのすべてを守ることは難しい面があります。このため、これらの文化財のうちの特に価値の高いものを選び、後世にそのままの姿で伝えるために、特に法律や条例によって守ることを表明した文化財を「指定文化財」と呼びます。指定文化財には、市町村指定・県指定・国指定など、その価値によっていくつかのランクがありますが、文化財保護法によって国が認めた文化財が国指定文化財です。国指定文化財のうち、建物や美術工芸品など、物として指定されたものを重要文化財と呼びますが、さらに、国は、この中でも特に優れたもので、世界に誇れる価値のあるものを「国宝」として、特別な価値付けをしているのです。つまり国宝は、数ある文化財の中でも最も高い価値を持つ存在です。

現在の文化財保護制度は、昭和25年の文化財保護法の制定と同時にスタートしました。このほど国宝に指定された青井阿蘇神社は、実に58年に及ぶ文化財保護制度の歴史の中で、熊本で初めて誕生した国宝ということになります。また、国宝建造物としては日本の最南端に位置するものです。



国宝

重要文化財のうち世界文化の見地から価値の高いもので、たくいなき国民の宝たるもの

国指定文化財

日本の国が世界に誇る大切な文化財。国指定文化財のうち、世界的にも特に重要な文化財に「国宝」・「特別史跡」・「特別天然記念物」があります。



県指定文化財



熊本県が全国に誇る大切な文化財。

市町村指定文化財



市町村を代表する大切な文化財。



## 熊本と国宝

熊本ゆかりの国宝としては、青井阿蘇神社以外にも忘れることのできないものがあります。玉名郡和水町にある江田船山古墳から明治6年に発見された出土品です。冠や耳飾り、大刀や鏡、沓など、およそ90点にのぼる副葬品で、特に75文字が刻まれた「銀象嵌銘大刀」が示すように、我が国の古代史を語る上で欠かせない貴重な資料であるとして、昭和40年に一括して国宝に指定されました。

ただし、これらの出土品は、発見後ほどなく明治政府が買い上げたため、現在は東京国立博物館（平成館）まで出かけていかなないと見ることはできません。平成11年には、熊本国体開催にともない、128年ぶりに、県立美術館で念願の里帰り展が開かれ、多くの人々が訪れたのは記憶に新しいところです。

青井阿蘇神社は、県民のみなさんが、いつでも身近に触れることのできるものです。今回の青井阿蘇神社の指定は、名実ともに、国の宝であり、かつ、熊本県民にとっての宝の誕生につながったということができると思います。



冠帽



沓

船山古墳出土品(レプリカ)



### ○文化財保護法

第二十七条 文部科学大臣は、有形文化財のうち重要なものを重要文化財に指定することができる。

2 文部科学大臣は、重要文化財のうち世界文化の見地から価値の高いもので、たくいなき国民の宝たるものを国宝に指定することができる。

青井阿蘇神社の国宝への道のり

昭和8年(1933)1月23日 「国宝指定」(国宝保存法)

昭和25年(1950)8月29日 「国重要文化財」(文化財保護法)

平成20年(2008)6月9日 「国宝」(文化財保護法)



# 青井阿蘇神社の指定された建物

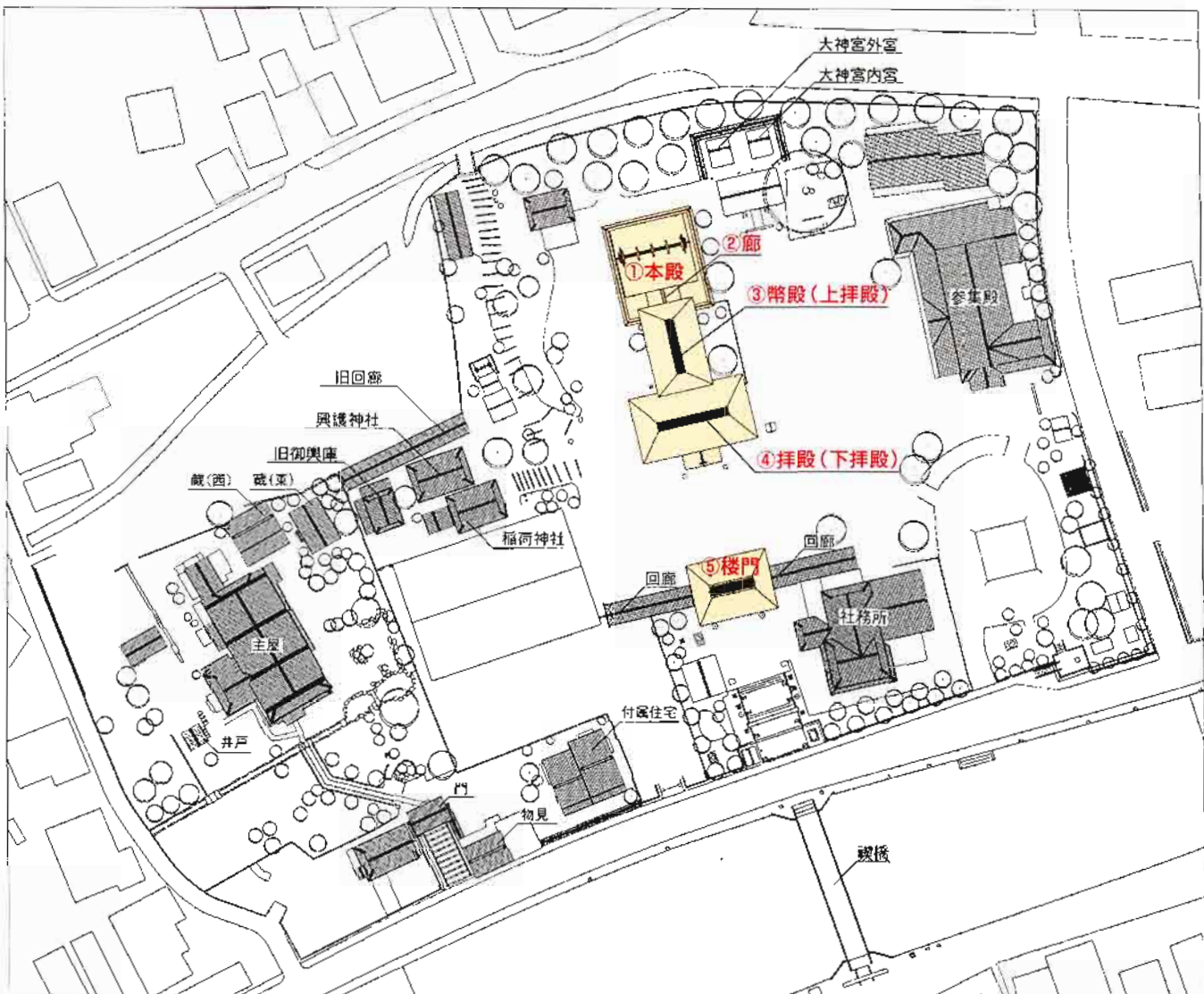
- ①本殿 (慶長15年(1610)造) : 三間社流造、銅板葺
- ②廊 ( 同 上 ) : 桁行1間、梁間1間、一重、切妻造、銅板葺
- ③幣殿 ( 同 上 ) : 桁行5間、梁間3間、一重、寄棟造、茅葺
- ④拝殿 (慶長16年(1611)造) : 桁行7間、梁間3間、一重、寄棟造、茅葺、  
向拝1間、唐破風造、銅板葺
- ⑤楼門 (慶長18年(1613)造) : 三間一戸楼門、寄棟造、茅葺



国宝指定書

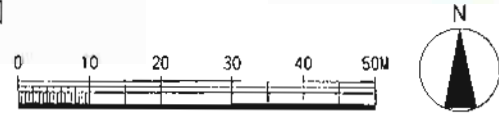
- 附：⑥棟札1枚 慶長15年(1610)3月28日、  
 ⑦銘札5枚 享保9年(1724)5月28日、寛保元年(1741)4月11日  
 寛延4年(1751)4月15日、安永6年(1777)2月23日  
 安政2年(1855)4月

附指定とは、国指定物件の価値を補完するものです。棟札と銘札が附指定されていますが、これらは、社殿の建造された経緯やその後の修理の状況などが記された貴重なものです。



青井阿蘇神社と、その周辺図

指定物件





①本殿 御神体を安置する社殿です。



②廊 建物間を接続する渡り廊下です。龍の彫り物が見事です。



③幣殿 祭儀を行い、幣帛（榊の枝に掛けて、神前にささげる麻や楮で織った布）を奉る社殿です。歴代の相良氏が、お籠もりされた所でもあります。



④拝殿 祭祀・拝礼を行なうための社殿で内部は3区画されています。向かって右側が、神供所、中央が拝殿、左側が神楽を舞う神楽殿となっています。



⑤楼門 神社への入口に建つもので、この楼門は、2階建てで1重目に廻縁が造られています。また、垂木には「人吉様式」と言われる神面が四方に取り付けられています。



⑥棟札 慶長15年(1610)



⑦銘札 (安永6年:1777) 右(表)左側(裏)

慶長15年の棟札(左)です。本殿の完成した年月日や施主・大工などが記されています。また、安永6年の銘札(右)には、本殿の屋根を葺き替えしたことなどが記されています。

## 青井阿蘇神社の三二知識

青井阿蘇神社は、大同元年(806)9月9日に創建されたもので、建久年中(1189~98)には、相良家初代長頼が遠江(現・静岡県西部)から当地を支配するに当たり、相良氏の氏神として代々尊崇されてきました。

以来、藩主は、球磨郡内で疫病が流行すると、人々の平安を願い悪疫退散の大祈願を行ったり、朝鮮出兵時には、自らの武運長久を祈願したりしました。

社名については、延宝5年(1677)に青井大明神の額が楼門に掲げられたことが知られており、その後、明治元年(1868)に青井大明神を青井神社に改称、さらに明治5年(1872)に現在の青井阿蘇神社の名称となりました。

明治15年(1882)に本殿屋根を相良氏に替わって球磨郡中の寄付金で葺き替えられましたが、このように新体制になってからは、地域の人々により大切に守り伝えられてきました。

### 御神体

青井阿蘇神社は、大同元年に阿蘇神社の分霊を勧請したとされるもので、祭神は、阿蘇十二神の内の健磐龍命、その妃の阿蘇都媛命、お二人の子供の国造速甕玉命の三神とされています。

嘉暦2年(1327)には、銅造十一面観音菩薩坐像掛仏、応永16年(1409)、直径1メートルほどの掛仏の奉納など、当時の神仏習合の様子をうかがわせる貴重なものです。

神仏習合とは、日本の神々は仏教の仏菩薩と同じとみなし、仏菩薩を神となつて現れた姿とするという考え方です。このような考え方は、江戸時代まで続きました。



応永16年銘掛仏

### 青井阿蘇神社の祭

おくんち祭、夏越祭、稲荷神社の初午の三大祭をはじめ、四季を通じて様々な祭が行われます。中でもおくんち祭は、めでたい重陽の日(9月9日)に神様が鎮座されたことを祝う盛大な祭で、現在は10月9日の神幸式を中心に3日から11日まで行われます。8日夜は勇壮な球磨神楽が行われ、神幸式では神輿、獅子舞、神馬、稚児など約

3000名の長い行列が市街地を練り歩きます。旧暦6月30日の夏越祭は茅の輪くぐりや人形流しで罪・穢れを祓い清める祭で、2月の初午は五穀豊穡や商売繁盛を祈願する祭です。

至徳3年(1386)に夏越祭が、文明4年(1472)に神楽が、慶安5年(1652)には藩主による神楽太鼓奉納が行われたという記録があり、数百年間変わることのない祈りの姿を今に伝えています。



球磨神楽



おくんち祭り「神幸式」

### 造った人々

慶長15年の棟札によると、相良家第20代長每(頼房)と家臣の相良清兵衛(藤原頼兄)、その子頼安により、同14年に着手され、本殿・廊・幣殿は翌年、拝殿は同16年、楼門は同18年に完成しました。

また、造営にあたっては、長毎の家臣で藩主と並ぶ権力を持っていた相良清兵衛が、寺社奉行として現在の社殿の建設に力を尽くしました。この清兵衛屋敷跡は、人吉城跡の人吉城歴史館で一部が公開されています。

なお、同棟札には、惣大工として窪田正市允・愛甲喜七郎をはじめ、小工数十人と書かれています。惣大工は大工・小工を指揮した者と思われます。



相良長每像(相良神社所蔵)

## 建物の装飾の特徴



本殿妻の装飾  
柱には藤の花が彫られています。



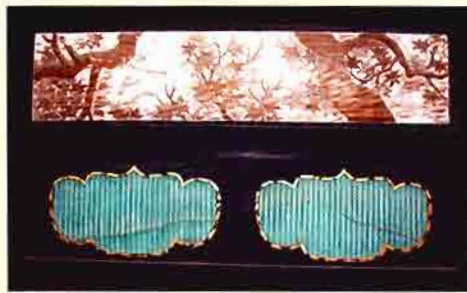
本殿扉内側の装飾  
社紋である鷹の羽が描かれています。



楼門の彫刻「二十四孝」の部分  
朱寿昌が老母とめぐり会う場面です。



幣殿内側小壁の彫刻  
小壁の装飾の図柄は、通常区画ごとに完結していますが、本社では連続して描かれています。



幣殿のかざり金具  
最新の流行が取り入れられています。



幣殿外側の装飾です。



楼門の木組みです。



楼門に見られる神面です。

## 文化財・国宝青井阿蘇神社の教育への活用

地域に住む人々の共通の思い出と言えるものが歴史であり、地域の歩みを示す思い出がたくさん詰まった証拠の品が文化財です。そのために多くの場合、文化財は、それぞれの地域がその地域であること示す上で、象徴的なものとなっています。

ところで、文化財には、さまざまな種類があります。なかでも建造物は、美術工芸品や埋蔵文化財とは違い、いつでも誰でも目にするすることができるもので、多くは地域のランドマーク（地域の目印）となっています。

また、今回指定された青井阿蘇神社のような社寺建築は、地域に住む人々の思いや願いが込められています。たとえば、楼門や幣殿を飾る彫刻の題材となった「二十四孝」は、「親に孝養を尽くす子よ出でよ」という、先人の思いが込められたものでしょう。

このように、文化財は、地域を知る上で欠かすことのできない教材なのです。文化財が、学校教育や生涯学習など、さまざまな機会に活用されることを願っています。

### 図版の提供及び協力者

- ・ 青井阿蘇神社
- ・ 人吉市教育委員会
- ・ 和水町教育委員会

文化財通信くまもと 第26号 平成20年11月14日  
発行：熊本県教育庁文化課 TEL 096 (333) 2704

FAX 096 (384) 7220

文化課ホームページ「くまもとの文化」アドレス

[www.pref.kumamoto.jp/education/hinokuni](http://www.pref.kumamoto.jp/education/hinokuni)

# 県内の国・県指定・社寺建築

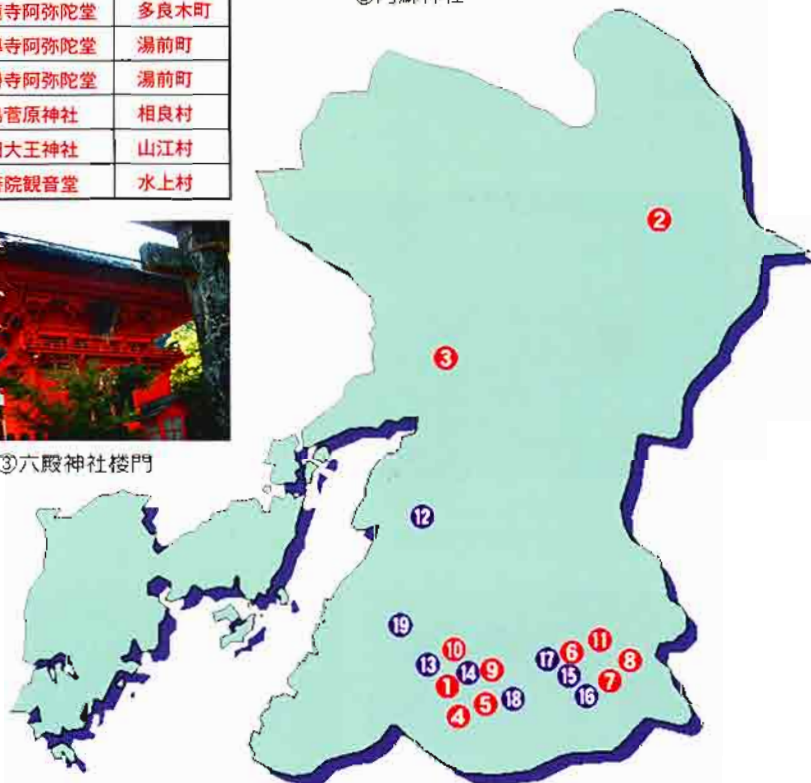
国指定		
NO	名称	所在地
1	青井阿蘇神社	人吉市
2	阿蘇神社	阿蘇市
3	六殿神社楼門	熊本市
4	老神神社	人吉市
5	岩屋熊野座神社	人吉市
6	青蓮寺阿弥陀堂	多良木町
7	明導寺阿弥陀堂	湯前町
8	八勝寺阿弥陀堂	湯前町
9	十島菅原神社	相良村
10	山田大王神社	山江村
11	生善院観音堂	水上村



②阿蘇神社



③六殿神社楼門



県指定		
NO	名称	所在地
12	八代神社	八代市
13	井口八幡神社	人吉市
14	大信寺地藏堂	人吉市
15	王宮神社楼門	多良木町
16	宮原観音堂	あさぎり町
17	須恵諏訪神社	あさぎり町
18	井沢熊野座神社	相良村
19	神瀬住吉神社	球磨村



⑦明導寺阿弥陀堂



⑩山田大王神社



④老神神社



⑧八勝寺阿弥陀堂(厨子)



⑤岩屋熊野座神社



⑪生善院観音堂



⑨十島菅原神社



⑥青蓮寺阿弥陀堂

人吉・球磨の歴史と社寺建築	
時代	主な出来事
(西暦)	
平安	794 都が平安京に遷される 806 青井阿蘇神社(人吉市)の創建
鎌倉	1192 源頼朝、鎌倉に幕府を開く 1205 相良長頼、人吉荘の地頭となる 1229頃 明導寺阿弥陀堂(湯前町)の建立
室町	1416 王宮神社楼門(多良木町)の建立 1443 青蓮寺阿弥陀堂(多良木町)の建立 1448 相良長統が上相良氏を滅ぼし球磨郡を統一 1484 相良為統、初めて八代へ進出 1485 為統、球磨・芦北・八代の3部支配を実現 1490 八勝寺阿弥陀堂(湯前町)の建立 1542 井沢熊野座神社(相良村)の建立 1546 山田大王神社(山江村)の建立 1549 六殿神社楼門(熊本市)の建立と伝えられる 1552 須恵諏訪神社(あさぎり町)の建立 16世紀中頃 宮原観音堂(あさぎり町)の建立 1555 相良晴広、一向宗を禁止する 1573 室町幕府滅ぶ
安土・桃山	天正年間 岩屋熊野座神社(人吉市)の建立 1582 織田信長、本能寺で殺される 1587 相良長毎、九州征伐に来た秀吉と会い、球磨郡を安堵される 1589 十島菅原神社(相良村)の建立 1592 相良氏、文祿の役に陣出陣(朝鮮出兵) 1596 相良氏、慶長の役に陣出陣 1600 関ヶ原の戦い、相良氏は東軍につき所領を安堵される
江戸	1603 徳川家康、江戸に幕府を開く 1610 青井阿蘇神社(現在の社殿)の建立 1625 生善院観音堂(水上村)の建立 1628 老神神社(人吉市)の建立 1637 島原の乱起こる(~1638) 1645 大信寺地藏堂(人吉市)の建立 1664 人吉の町人林正盛、球磨川を開削する 1697 人吉藩主高橋政重、幸野溝の工事に着手 1699 井口八幡神社(人吉市)、神瀬住吉神社(球磨村)の建立 1835~1850 阿蘇神社(阿蘇市、現在の社殿)の再建 1867 徳川慶喜、大政奉還す

この分布図で分かるように、人吉・球磨地方には、国・県指定文化財の社寺建築が数多く集まっています。